

ORACLE ENTERPRISE MANAGER 10g ORACLE PROVISIONING AND PATCH AUTOMATION PACK FOR ORACLE MIDDLEWARE



利点

- Oracle Fusion Middleware と基盤オペレーティング・システムへの自動パッチ適用
- クリティカル・パッチ機能によるアプリケーションの脆弱性の防止
- Linux オペレーティング・システムのベア・メタル・プロビジョニングによるプロビジョニング時間の短縮
- デプロイメント・プロセスに基づいたパッチ適用とプロビジョニングによる定義済みベスト・プラクティスの活用
- Oracle Fusion Middleware のクローニングによる迅速な拡張とプロビジョニング問題の最小化
- J2EE クラスタの効率的な拡張によるワークロードの変化への対応
- CLI ランタイム実行による既存スクリプトと自動パッチ適用の統合
- プロビジョニング・レポートとデプロイメント・レポートによる企業のセキュリティおよびコンプライアンス施策の改善

運用リスクと IT の総所有コストを削減するには、重要なデータセンター処理を簡素化する必要があります。Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware は、ソフトウェアやアプリケーションの配置とパッチ適用を自動化します。IT 管理者はこのソリューションを使用して、ソフトウェア・スタック全体をオペレーティング・システムからミドルウェア、アプリケーション・データベースに至るまでプロビジョニングできます。この機能を総合レポート・ツールと組み合わせて使用すれば、Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware ユーザーがシステム・インフラストラクチャ全体を効率的かつ効果的に管理できます。

自動プロビジョニングによる時間とコストの削減

Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware は、手作業、とくに面倒でエラーが発生しやすい作業を減らして、スケーラブルな標準ソフトウェア環境を構築します。管理者は豊富なプロビジョニング機能を使用して、データセンターの処理を合理化し、プロビジョニング機能の実行に必要な時間を大幅に短縮できます。

以下の表は、一般的なプロビジョニング・タスクの内部テスト結果を示しています。データの示すとおり、Oracle Enterprise Manager と Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware の使用時には、各タスクの所要時間が大幅に短縮されています。

Oracle Enterprise Manager の使用時/非使用時の一般的なプロビジョニング・タスクの実行						
タスク	年間実施数	システム数	Oracle Enterprise Manager 非使用時の所要時間/年	Oracle Enterprise Manager 使用時の所要時間/年	短縮時間	短縮の割合
パッチ適用	25	100	1250	21	1229	60
Oracle ソフトウェアのクローニング	15	100	1188	250	938	4
J2EE クラスタの拡張	15	10	377	112	265	3
Linux のベア・メタル・プロビジョニング	10	100	1188	166	1022	7

表 1. 内部ベンチマークに基づき、Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware はプロビジョニング・タスクの実行に必要な時間を大幅に削減

インフラストラクチャへのエンド・ツー・エンドのパッチ適用

Oracle Enterprise Manager には、さまざまな製品のパッチと顧客の環境にシームレスに対応するエンド・ツー・エンドのパッチ適用ソリューションが備わっています。

Oracle Fusion Middleware への自動パッチ適用

Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware は、Oracle Fusion Middleware と Oracle 管理エージェントへの Oracle パッチの配置を自動化します。このアプリケーションでは、サービスの停止と起動を適切に管理し、さまざまなユースケースに合わせて事前/事後のパッチ適用スクリプトを実行できます。こうした柔軟性により、複雑な多層環境でも大量の個別パッチとパッチ・セットの配置が可能です。

デプロイメント・プロシージャによるベスト・プラクティスのサポート

より複雑な多層環境に向けて Oracle パッチ適用の機能と柔軟性を高めるため、Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middleware ではインフラストラクチャに基づいたデプロイメント・プロシージャが活用されています。この標準のデプロイメント・プロシージャには、そのまま実行することもカスタマイズすることも可能なオラクルのベスト・プラクティスが表示されており、ユーザーがそれぞれのニーズに合わせて手順を有効/無効にしたり、カスタム手順を追加したりできます。さらに、デプロイメント・プロシージャは、super user do (sudo) やプラグブル認証モジュール (PAM) を使用したセキュアなホスト認証についてもサポートしています。パッチ適用アプリケーション全体をコマンドライン (CLI) モードで実行できるため、既存のスクリプトとの統合が可能です。

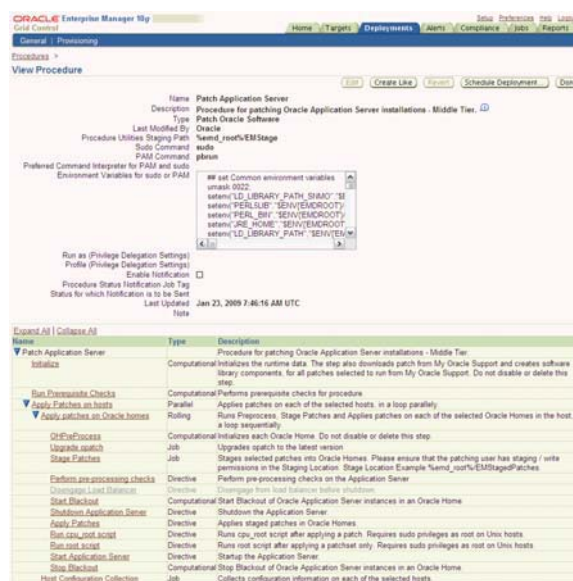


図 1. デプロイメント・プロシージャに基づいた Oracle Fusion Middleware のパッチ適用

インテリジェントなクリティカル・パッチ管理

Oracle Enterprise Manager には、My Oracle Support にリリースされているクリティカル・パッチがないかどうかを定期的かつ事前に問い合わせるクリティカル・パッチ機能が備わっています。関連するパッチがあると、管理者が通知を受信してパッチの適用を開始し、脆弱なインストールを修正できます。インターネットに接続されていないデータセンターに対しては、オフライン・モードのクリティカル・パッチ機能が提供されます。

一般的なオペレーティング・システムのパッチ適用のサポート

Oracle Enterprise Manager は、Linux オペレーティング・システムのパッチ適用をサポートしています。また、Linux 向けとして Unbreakable Linux Network (ULN) からパッチを直接ダウンロードする機能があります。さらに、単一のパッチ適用グループにいくつかの Linux ホストを統合し、検証および承認されたパッチのリポジトリから事前にまたは必要に応じてパッチを適用できます。

Oracle Enterprise Manager は、準拠していないホストをドリルダウンする機能を使用して、企業全体の Linux 環境を表示します。これによって、ホストはテストおよび認可されたソフトウェア・レベルに常に対応します。また、固有のパッチ適用方法による Linux オペレーティング・システムの非定型のパッチ適用もサポートしています。

You can organize Linux hosts into catching groups to keep them up-to-date and monitor their compliance. A compliant group comprises only compliant hosts. A host has only up-to-date packages.



図 2. Oracle Enterprise Manager は Linux の事前パッチ適用をサポート

パッチ配置の一元管理レポート

上記のすべてのパッチ適用機能は、パッチの配置と非準拠インストールについて、詳細情報とサマリー情報を生成する強力な一元管理レポート機能でサポートされています。このアプリケーションには、さまざまな顧客ニーズに対して有効な意思決定を支援するため、標準レポート機能のほかにスケジューリングとセキュアな公開をサポートする非定型レポート機能も搭載されています。

サーバーとソフトウェアのプロビジョニング

グリッド・コンピューティングの基本的な概念は、ハードウェアとソフトウェアのリソースを迅速かつ効率的にデプロイし、再び割り当てて運用するための機能に特化することです。

Linux のベア・メタル・プロビジョニング

Oracle Enterprise Manager は、標準化された PXE (Preboot Execution Environment) ブート・プロセスによる Linux オペレーティング・システムのベア・メタル・プロビジョニングをサポートしています。管理者はこのプロセスの一環として、イメージと特定のハードウェアおよびストレージのテンプレートを関連づけて、さまざまなハードウェアを対象にし、オペレーティング・システムに追加ソフトウェアをプロビジョニングできます。プロビジョニングされたサーバーは Oracle Enterprise Manager に登録され、今後の全システム管理の対象となります。

Oracle Fusion Middleware のデプロイメント・プロシージャ

Oracle Enterprise Manager には、Oracle Fusion Middleware ソフトウェアのベスト・プラクティスをインストールするためのデプロイメント・プロシージャが標準で付属しています。このプロシージャは、製品のインストールとネットワークおよびロードバランスの構成を自動化することで、時間がかかるうえにエラーの発生が起りしがちな手動プロセスを排除して、アプリケーションの可用性を最大化します。

リリース管理とクローニング

Oracle Enterprise Manager は、参照ホストやイメージのソフトウェア・ライブラリの"ゴールド・イメージ"のプロビジョニングまたはクローニングを通じて、リリース管理プロセスをサポートします。検証および承認されたソフトウェア・イメージである"ゴールド・イメージ"は、デプロイする前に任意のレベルでパッチを適用できます。クローニング・プロセスでは、IP アドレスやホスト名などの設定に対し、コンテキスト固有の調整が自動的に実行されます。さらに、アプリケーション・サーバーのデプロイメント・プロセスにより、インスタンス名やインスタンス管理パスワードなどのインスタンス固有の構成が可能です。

クローニングをサポートしている Oracle Fusion Middleware ソフトウェアには、Oracle HTTP Server、Oracle Containers for J2EE、Oracle BPEL Process Manager、および Oracle Enterprise Service Bus があります。

クラスタのスケールアップ

増大するビジネスの要求に対処するため、現代のデータセンターではリソースの迅速な増強と再配置が必要です。Oracle Enterprise Manager を使用すれば、管理者がクローニング・テクノロジーを活用して、既存の Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) クラスタにアプリケーション・サーバー・インスタンスを追加して迅速に拡張し、アプリケーションの負荷の増大に対応できます。

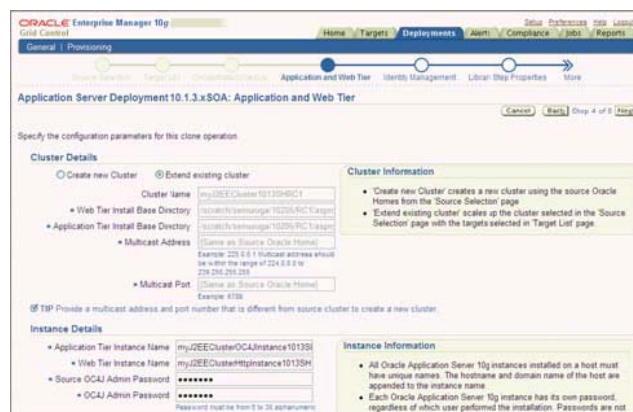


図 3. Oracle Application Server クラスタを Application Server Deployment 10.1.3.x SOA デプロイメント・プロセスにより効率的に拡張

お問い合わせ

Oracle Provisioning and Patch Automation Pack for Oracle Middlewareの詳細は、<http://www.oracle.com/technology/global/jp/products/oem/index.html> を参照ください。



Copyright © 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。